

オールインワンのまちづくり

【所信表明（令和元年第2回明和町議会定例会より）】

本日、令和元年第2回明和町議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはお忙しい中、ご参集いただき、ここに議会が開会できましたことを、まずもって厚く御礼申し上げます。そして、今定例会は、私が町長再任後、初めての定例議会でございますので、ただいまお許しを賜りましたとおり、町長再任の決意と、それに臨む所信の一端を申し述べさせていただきます。

去る4月の町長選挙におきまして、多くの町民の皆様をはじめ、各方面からの力強いご支持を賜り、明和町長として再び町政運営に当たらせていただくことになりました。私に寄せられました温かいご支援に心から感謝いたしますとともに、この場に立ち、改めて、町長という責任の重さを痛感し、いまでも身の引き締まる思いでございます。また、無投票による再任とはいえ、無投票の持つ意味の重さを厳粛に受け止めつつ、先人たちが築かれました、このすばらしい明和町のさらなる飛躍と、町民福祉の増進のため、これからの町政運営に、全力で邁進してまいりますので、議員各位並びに町民の皆様におかれましては、何卒、ご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

明和町はご存じのとおり、東西に細長い地形で、東北自動車道、東武伊勢崎線、国道122号線がそれぞれ南北に縦断しており、交通インフラに恵まれた土地であり、群馬県で東京に一番近い町です。そして、高度成長期の昭和から令和の時代を迎え、社会の成熟とともに、日本は少子高齢化を背景とした人口減少社会に入りました。いま、直面している「人口急減」、「超高齢化社会」への突入という大きな社会環境の変化へ対応をどうするか対応が出来なければならないという思いからさまざまな事業においてスピード感を持って進めてまいりました。

明和町も例外なく生産年齢人口が減少する一方、高齢者人口が増加することで、税収は減り、扶助費は膨らみます。その結果、歳入減と歳出増が同時進行するという、かつて経験したことのない、自治体の存続にかかわるほどの、行財政危機を迎えてしまうことは間違いありません。こういった時代背景の中にあっても、経済が縮小することなく、活力や賑わいを持続させ、年齢や性別に関係なく、だれもが等しく輝ける社会、安全で安心な活力あるまちづくりを実現して行かねばなりません。

これからのまちづくりは、官民連携からなる新しい価値観で町政運営を進め、まちのにぎわいを創出する必要があります。自治体と民間企業とのコラボレーションが必要になり、自治体の税収やノウハウだけで地域再生は厳しく、いかに民間活力を導入して民間の知恵を借りるかが今後の明和町の課題です。また、官民連携による地域活性化事業に対しては、「官」のみがおこなう場合と比べ国から受けられる補助金の種類が増えます。

地方創生には地域の活力が必要となるため、そこに対しての補助が手厚くなるのです。これらを活用し、明和町をワンランクアップさせることができると考えております。

この町で生まれた人々が就職する職場があり、買い物や家族で食事ができる場所があり、医療も子育ても福祉も充実した施設がある。そんな誰もが住みたくなるような「選ばれて住み継がれる町」をめざしていきます。

そのためには、優良企業の誘致で財政力と町民が地元で就職できる職場をつくり、税金だけではおこなうことができないインフラ整備を官民連携により民間資本を活用した新しい考え方でまちづくりを進め、全てがそろった「オールインワン」の笑顔があふれるまちづくりを進めていきます。

明和町が持続し、発展しつづけるために、従来の「ウェイティング（待ちの姿勢）」でなく、手挙げ方式で、自治体みずから、国の予算や交付金を取りに行くという積極さが必要となり、自治体の発想力、企画力、実行力が問われることとなりました。これは、まさに、自治体が生き残りをかけ、いかにして地域住民と協働し、また、地域の特性や潜在能力を最大限に活かしながら、自立できるまちづくりを進めていけるか、いわゆる「真の自治体力」が試される時代を迎えたということでもあります。こういったことから、この4年間一生懸命に町の活性化に取り組んでまいりました。そして、これからも実現のために取り組んでまいります。

私は、3つのまちづくりを柱とし、町民の皆様との対話と協調を大切にしながら、一緒になって施策を考え、そして、すべての施策に決断力とり

一ダースを持って挑み、最後まで責任を持って取り組んでまいります。

まず、第1の柱といたしましては「着実に歩み続けるまちづくり」です。着実に歩み続けるということは、町を成長、発展させ続けていくということです。町民の皆様が、さらに便利で快適な生活をおくることができるよう、計画的で機能的な土地利用の推進、広域幹線道路網等の町の骨格づくり、あわせて生活道路の改良・整備を進めます。特に、現在事業を推進しております川俣駅周辺地区の整備にあたりましては、公共交通機関の結節点としての機能はもとより、「まちの玄関口」として人々が集い交流し、賑わいと活気があふれる交流拠点の機能と「まちの顔」として誇れる景観と、駅の東西それぞれに求められる機能を踏まえ、バランス良く整備してまいります。

また、町を成長させ元気にするためには欠くことのできない地域産業の振興を図るため、国・県ともしっかりと連携をしながら、明和町では、前述のとおり優良企業の誘致を積極的におこなっておりますが、町の企業で働くかたをはじめ、川俣駅を利用し周辺の工業団地で働く多くかたは、町に定住せず定住人口の増加につながらない現状にあることも事実です。新規企業の誘致、そして、新たな産業用地の創出も含め、積極的に取り組みつつ、既存企業の支援、地域特性を活かした商業の活性化、また、農業生産基盤の強化、就農支援、6次産業化への支援等にも積極的に取り組んでまいります。

次に、第2の柱といたしましては「確実に安心できるまちづくり」です。町民の皆様に、確実な安心を提供し、町民の皆様が生涯にわたって安心して暮らすことができる明和町にしていきます。町が以前おこなった町民アンケートや町内在勤者アンケートにて、医療施設等が少ないことがその大きな原因であると指摘されました。これを受け、明和町では医療が充実した地域をめざし、川俣駅東口に複数の診療科目と調剤薬局等をまとめた医療モールと、あわせて保健センターの移転・複合化の可能性を検討しています。

また、高齢者が、出来る限り住み慣れた地域で、元気で生きがいを感じながらいきいきと暮らすことができるよう、高齢者の働く場所の確保・支援、生涯学習の充実、介護保険制度や各種高齢者福祉事業の持続可能な運営、あわせて健康づくりなど介護予防にも力を入れてまいります。

さらに、少子化に歯止めをかけ、また、若い世代の定住対策としても、子どもを安心して生み、育てることができる子育て環境の整備に努めます。具体的には、妊娠期からの支援体制の強化や、夫婦共働きもできる保育環境の整備、子育て世代の経済的負担軽減策に積極的に取り組んでまいります。同時に、次世代を担う子どもたちが明るく、たくましく育ち、そして幅広い知識と確かな学力を身につけられるよう、家庭、学校そして地域がそれぞれの責任を果たしつつ、しっかりと連携した教育環境の整備にも取り組んでまいります。

そして、災害対策の整備においては、町民の皆様の命と財産をしっかりと守るために、災害リスクを徹底的に検証し、行政のみではなく、町民の皆様としっかりと力を合わせ、自助、共助、そして公助による「災害に強い地域づくり」を進めてまいります。

最後に、第3の柱といたしましては「誠実なまちづくり」です。地方自治の原点は、「町民が主役」、これが絶対であります。この原点を忘れることなく、町民の皆様に信頼をしていただける行財政の運営をしてまいります。

そのためには、徹底した情報公開と、役場職員の意識改革に取り組みます。具体的には、まず「町民主体」という原点を徹底した上で、職員一人一人が、ただ言われたことだけ、また、決まったことだけをこなすのではなく、常に問題意識、危機意識を持ち、より高みを目指し、町民の皆様の声を聞き、そして迅速に行動を起こし、最後は仕事の結果にもこだわる職員の育成です。しっかりとした研修を実施し、こうした意識をもった職員が集まる行政機関にすることで、町民の皆様に真に信頼される行政の実現を図ってまいります。

あわせて、行政を「経営する」という感覚をしっかりと持ち、行政サービスの提供にあたっては常にコスト面にも意識を向けつつも、民間活力の積極的な導入や、自主財源確保に繋がる施策を積極的に展開し、持続的に自立した自治体経営を行える財政基盤の安定化を図ってまいります。

以上、町長2期目就任に際し、町政を担当させていただくに際しての決意と所信の一端を申し述べさせていただいたわけではありますが、ただいま申し上げました3つのまちづくりの柱を推進し、私が掲げています「町、元気に！」を実現させるために、歴代の町長が積み重ねてこられたまちづくりを礎に、まだまだ多くの施策に果敢に取り組んでいく所存ではありますが、これらを具体的に町政運営に反映し、着実に実現して行くには、議員各位、そして町民の皆様のご理解とご協力をいただかなくては到底達し得ないものでございます。

つきましては、あらためまして、議員各位並びに町民の皆様に、これからの町政運営にあたりまして、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます、以上で、私の所信表明とさせていただきます。

令和元年 6 月 5 日

明和町長 富塚 基輔